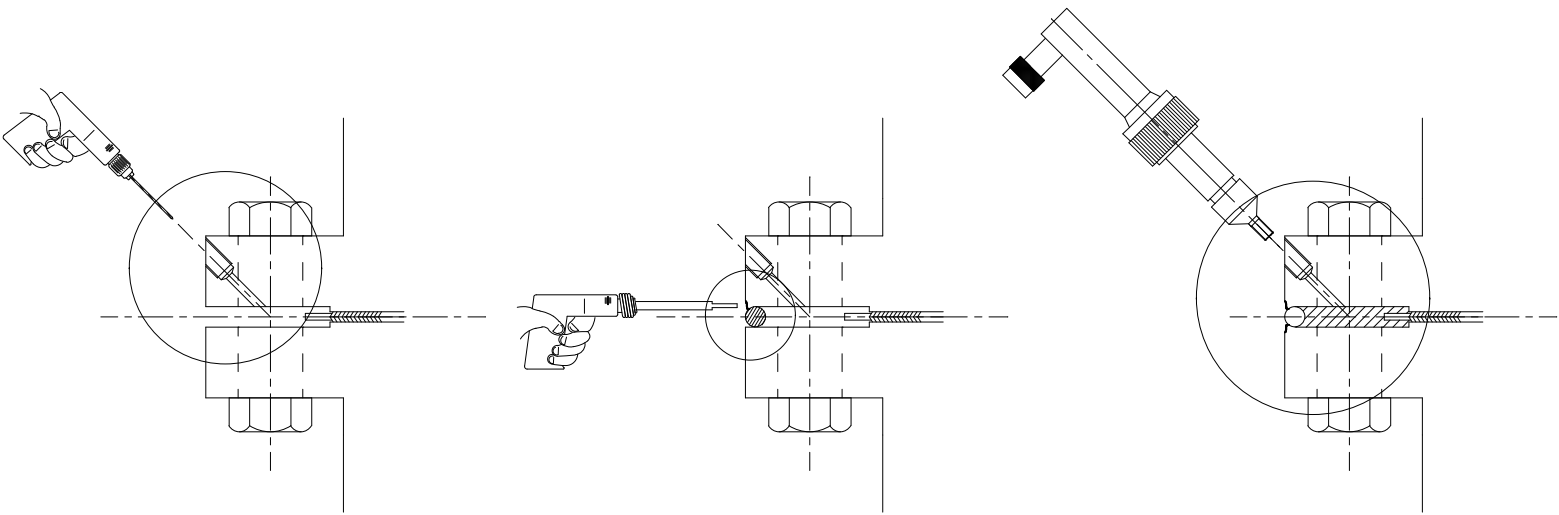


# フランジ・ボンネットの漏洩補修



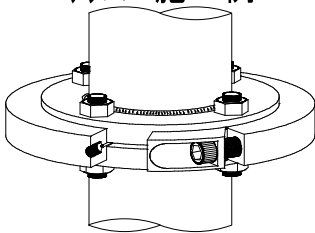
フランジに注入口の加工をします。その場合、フランジ強度に影響のないように、開口部はボルト芯より外側にします。

フランジの隙間に、真鍮のワイヤーを差込、周囲をコーキングします。

ワイヤーと、正規のガスケットの間にできた空間に、コンパウンドを圧入し、新しいガスケットとして成型します。

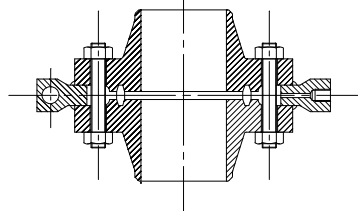
フランジの施工の基本は、上の図で示したワイヤーコーキングによる方法です。技術者は、まず、この工法による施工に熟達しなくてはなりません。この工法は、いろいろな事を教えてくれます。もし、治具を使用しなければならないときに必要となるその強度や、漏洩を封止するに必要な十分な注入圧、コンパウンドの流れ方、等々。治具を使用してでは決して知りえない様々な事象を見せてくれます。できる限りフランジの施工は、ワイヤーコーキングによってなされるべきですがそれでも、フランジ面間や流体の圧力によっては、クランプ等を使用せざるを得ないことがあります。

## クランプ 施工例



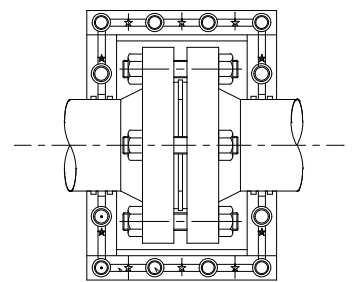
フランジ面間の大きなものは、ワイヤーの受圧面積が大きくなるため、コーキングでは支えきれなくなります。そのため2つ割のクランプが、使われます。

## 溶接差し込みクランプ施工図



高圧フランジでは、コンパウンドの受圧面積が増える分、フランジボルトの強度が不足します。そのため、何らかのボルトの補強が必要となります。

## ボックスイン施工例



ガスケットのクラス違いや、欠損では、フランジ全体を、箱で囲う必要があります。

この他、フランジの補修では部分シールや、オリフィスフランジの修理、全面座ガスケットでの修理、等、非常に多くの修理法があります。弊社はそのすべての工法に熟練、対応しているだけでなく、より安全で、より確実な修理法の開発、研究にも力を入れています。



Tel 044-344-2418

Fax 044-344-2419

<http://ols-web.com>

[tominaga@ols-web.com](mailto:tominaga@ols-web.com)